

ひとりひとりのしあわせと、
生きる喜びを、いのちの輝きを
ささえたい。

きらめき

VOL. 77

大牟田市介護支援専門員手引書改め ケアマネハンドブック が完成しました！！

きらめきvol.76で作成中、と紹介させて頂きました「大牟田市介護支援専門員手引書（仮）」が令和4年3月ついに完成し、正式名称も「ケアマネハンドブック」に決定しましたので、ご報告致します。

改めてこの手引書が作成された主旨について説明しますと、「大牟田市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営並びに運営に関する基準等を定める条例」及び「大牟田市指定介護予防支援等の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例」で定める基本方針を順守し、介護支援専門員がケアマネジメントの理解を深め、その標準化を図ることを目的として、保険者・介護支援専門員が協働で手引書を作成し、共通理解につなげていくという事になっています。

この「ケアマネハンドブック」ですが、会員の皆さんが、ベテランの方から新人の方まで幅広く活用して頂けるようにケアマネジメント業務に関する事だけではなく、法的な根拠や事例、社会資源なども記載しています。新人研修や多職種の学習資料として、会員の皆さんの業務の確認・振り返りとしてもお役に立てると思います。4月22日に、zoomにて「ケアマネハンドブック」の内容や活用法などについての説明会を開催致します。是非ご参加下さい。

「ケアマネハンドブック」は大牟田市のホームページから閲覧する事が出来ます。必要に応じてその都度確認して頂いても良し、印刷して冊子にして常にカバンの中に忍ばせておかれるのも良し、自由に使って頂き、会員の皆様の日頃の業務の一助なれば幸いです。また制度改正などで内容に変更があった時は、随時更新していきたいと考えております。閲覧が出来る日時については、説明会や当協議会のホームページでお知らせ致しますので、ご確認をよろしくお願い致します。

最後になりますが、執筆や編集に関わって頂いた大牟田市福祉課の方々、会員の皆さん、ありがとうございました。



令和3年度 ケアマネサポート事業各エリアの活動状況の報告

吉野 エリア

吉野包括地域のサポートチームです。8名のメンバーで、1年間の計画を立て、少しでも吉野エリアの方々との顔が見える関係づくりが出来るように、事業所紹介の場づくりや民生委員さんとの懇談会、事例検討会や研修などのを行ってきました。近年はコロナ禍において、すべてのことが様変わりし、困惑しています。ですが、そのような環境にも負けないように少しずつ、リモートでの会議や研修を進めています。今年度は9月に事例検討「父娘の絆が崩れ何の手立ても出来なくなった家族への支援」、2月に「地域医療機関の古賀先生との研修会」を行う事が出来ました。来年は何をしようかと、サポートメンバーはワクワクしながら考えている頃でしょう。

三池 エリア

2021年度は長期化するコロナ禍の中、リモート等による研修が想定され、主任ケアマネのグループラインを作成し、情報を共有しました。ケアマネサポート事業は新型コロナウイルス感染予防対策をきちんと行い、5回開催する事が出来ました。対面に拘り実施し、事業所からは「顔が見える関係性が出来、今後、包括への相談がし易くなった」との言葉も聞かれました。またコロナ感染拡大が落ち着いている時期に地域ケア会議で出た課題を他の事業所も共有出来るように、情報を三池包括から発信しています。

今年開催する事が出来なかった研修などの企画は、次年度の課題となりました。

中央 エリア

今年度中央エリアでは、定例会議、ケアマネサポート事業や事例検討会と例年の活動をオンラインで開催しました。zoomが繋がらないハプニングもありましたが、グループLINEを作っていたことで、急遽LINE電話で会議を行い、無事に全日程を終了することが出来ました。定例会の中では普段の業務の中での疑問や、社会資源の共有など様々な話題が出て、活発な意見交換が出来たのではないかと思います。

コロナ禍も3年目になりオンライン会議にも慣れてきたところですが、やはり皆さんと直接顔を見ながら心置きなく話ができる日が来るのを願うばかりです。一年間ありがとうございました。

駛馬 勝立 エリア

令和3年度のケアマネサポート研修会は、高齢者に携わる支援者(ケアマネジャー等)の為に防災レクチャーを大牟田市防災危機管理室担当者より、zoomを活用したリモート研修を行いました。過去の太宰市の水害状況や水害発生時の情報収集(パソコン・スマホでの確認手法)を学ぶ事ができ、今後の災害時に役立てることができると、研修参加者からの言葉がありました。

2月にzoomを活用したケアプランのリモート研修を予定していましたが、コロナ禍の影響を鑑みて、延期となりました。新型コロナウイルス感染拡大が収束となれば、また、活動を再開したいと思います。コロナ感染予防で、日々奮闘されている皆様、明けない夜はないと言われていますので、笑って研修や活動ができる日が、必ずくると信じて、元気にいきましょう。

三川 エリア

令和3年度天領・みなと校区では、地域の居宅介護支援事業所・介護老人保健施設・有料老人ホーム・グループホーム・小規模多機能施設で「みかわよらん会」として、地域連携のための活動を行ってきました。今年度はコロナが落ち着いた時に1回集まり、近況の情報共有と「みかわよらん会」として、今後何をしていきたいかを討議し、3グループに分かれ、研修、地図・インフォーマル作成、居宅へのサポート事業を行うことになりました。みんな和気あいあいと活動しており、今後も三川地区のサポート事業としてこの活動を支援していきたいと考えています。

手鎌 エリア

令和3年度明治・手鎌のケアマネサポート事業では、年度始めに地域のケアマネジャーを対象にどのような研修を希望しているのかアンケートを取り一番希望の多かった障害福祉制度の研修を行いました。65歳到達時に障害から介護保険への移行時の対応や、65歳を迎えても使える制度の説明を障害福祉担当より研修を行っていただきました。zoom開催だった事もあり市内や他市のケアマネジャー、SWから申し込みをいただき多くの方に研修を受けてもらうことが出来、来年度も業務に活用できるような研修を計画していきたいと思っています。

相談支援事業者と介護支援専門員との 意見交換会が開催されました！

R4.2.18(金)午後3:00～4:30情報交流部会主催で「相談支援事業者と介護支援専門員との意見交換会」がzoom研修で開催されました。【障害者福祉のしおり】を参考資料として、福祉課障害福祉担当：鏑谷さん、障害者生活支援センター ハーツ所長：古賀さんより、制度について説明して頂き、その後はグループワークに移り質疑応答での意見交換を行いました。

自立支援給付等を利用されていた方が65歳を迎えると、介護保険を申請することになります。誕生月から2か月間は移行準備期間として、それまでのサービスが利用できますが、障害の特性上、環境の変化への対応が厳しい人もいます。早い段階でケアマネから相談支援専門員へ相談してもらうことで、不安のないように移行できるようにしたいと話をされていました。

認定後は基本的に介護保険が優先されますが、障害固有のサービス（行動援護、同行援護、自立訓練）は、65歳以降も利用ができます。また、障害特有の補装具（白杖、眼鏡など）の給付も可能です。介護保険でレンタルできる物は不可となりますが、既製品が身体に合わない場合は、ケアマネが意見書を提出することで購入できる場合もあります。購入後は対象とならない為、必ず事前申請が必要です。

障害支援区分は介護認定とは視点が違います。障害区分は1～6区分で、1が軽度で6が最重度。審査会は月1回、申請日に遡れず認定後からの利用になる為、申請からサービス利用まで1～2か月かかります。認定後に利用計画を作成し、細かく時間を設定してから計画書を障害福祉担当へ提出、支給決定されると受給者証が交付されます。介護保険は限度額範囲内でサービス調整しますが、障害支援は各サービスに上限時間が決められ、不足しても他のサービスから補足することはできません。世帯の所得状況により負担割合が決まり、世帯の範囲は本人と配偶者までとなっています。

大牟田市には4カ所の委託された相談支援事業所があり、相談支援専門員が相談から計画書の作成まで担われています。ハーツ（身障）、サンローレル（知的）、あじさい（精神）、ともだちのいえ（児童）とそれぞれの特徴はあるものの、どの事業所でも3障害に対応されています。

グループワークの質疑では、要支援認定者が介護タクシーを利用できず困るケースがあり、福祉タクシー利用券（身体障がい者手帳1.2級等所持者対象）を紹介されました。月2枚（年間24枚）交付され、初乗り料金相当が料金より差し引かれる仕組みです。窓口で申請すると、条件を満たせば、その場で交付を受けることができます。



ケアマネが訪問する高齢者宅にひきこもりの子がいるケースには、相談すると相談支援相談員が同行訪問し、症状に合った診断をしてもらう為の受診援助、定期訪問、生活保護申請等を支援。本人の求めがないと動けないこともあり、親の世代に介入するケアマネからの相談は、高齢化するに連れて表面化する8050問題の解決の糸口にもなるように感じました。

今回の研修はとても分かりやすく参考になりました。第二号被保険者の担当もある為、場当たりのではなく、制度を理解した上で、共に専門性を生かした連携・支援ができるようにしたいと思います。

シリーズ・実践事例

認知症のある母親と理解力に乏しく
喜怒哀楽が激しい長男への対応に苦慮した事例



【事例概要】

認知症があり、独居。近所に住んでおられるキーパーソンの長男から「介護保険の利用で何とか自宅での生活をお願いしたい」との相談があり、介入したケース。相談支援の関わりの中で、長男の攻撃的な口調に何度も悩まされた。どのような介護支援を望んであったのか、関わり方を振り返ってみたケースである。

【基本情報】

A氏。女性。83歳

介護度：要介護3

障害自立度：B2

認知症高齢者自立度：II b（主治医記載より）

家族構成：独居。（夫は10年前に他界）

子供は長男のみ

（結婚歴なし。市内在住独居）

既往歴：高血圧（近医受診されているが、不定期）

キーパーソン：長男（60歳代。無職）

（ADL）

移動：屋内はキャスター付きの椅子で移動。

外出はここ1年は受診のみで、長男の車で外出され、調子が良い時は半介助。調子が悪いと院内で車いすを利用。

食事：本人は「自分の食べるくらいは簡単なもので済みます」と言われるが、長男が弁当を買ってきて一緒に食べていることが多い。食事動作は問題なし。

入浴：長男は「介助して週に2回は入れてい

る」との事であるが、浴室を見せてもらおうと本人が入った形跡がない。また、浴槽も深く手すりもないために本人の大柄な体格を、瘦せている長男一人で介助されるのは困難と推測される。

排泄：Dパンツとパットを使用。交換は自分で出来るとの事であるが、尿臭がきつい。

服薬：飲み忘れが多い。長男は「自分が毎日訪問して確認している」との事であるが、残薬多い。

【支援経過】

小さな工場が立ち並ぶ一角の一軒家。近隣との交流はない状況。長男の申請によって（要介護3）の認定が下り、当事業所に支援相談があり、関わることになった。

R3年7月23日

長男より「介護保険で母のできないことを支援してほしい。自分も体力に自信がないので、どのようなサービスがあるのか教えてほしい」との相談があり、自宅で面談。当初は、物腰の柔軟性があるように思われたが、A氏が辻褃の合わない発言を繰り返されると、段々とケアマネに対してきつい攻撃的な口調に変わられる場面が、当初より見受けられていた。今、一番して欲しいこと、必要性の高いと思われる支援内容を提案したが、長男より「2、3日考えさせてほしい」との事であった。

7月26日

長男よりTEL。「あんたが提案したヘルパーさんでの入浴介助と調理をお願いしたい」との連絡が入り、再度訪問。本人にも支援内容の確認をしたが、「●●ちゃん（長男のこと）がそのようにしたいのならば、お任せします」との事であった。特に希望する事業所はないとのことであったため、こちらで手配し、サービス担当者会議の段取りを行なった。念のため週2回での利用料金を説明し、承諾を得た。

7月28日

サービス担当者会議開催。担当になる訪問介護事業所の責任者とヘルパーが出席。

入浴時は、時間の関係で長男が早めに来てお湯をためてもらっておき、その後にヘルパーによる入浴介助を行う。食材は長男の申し出で、自分が適当に買って置いて準備しておくとの事だったので、ヘルパーは調理及び掃除の支援を行う事を確認した。

8月2日

ヘルパーより報告あり。「息子さんの支援ができてなく、入浴するまでの時間がなかったので、清拭で済ませました。また、買い物もされてなく、今日はあるもので何とか調理はしてきました」との事であった。長男に連絡をとると「全部あんたたちがしてくれるって言うたやんね」と攻撃的な口調で反論された。結局、先日担当者会議の開催後に、同意の署名・捺印して頂いた支援計画書でサービス内容を再確認したいとお伝えし、1時間後、自宅で長男様と面談した。書類等を見せると「あー。そうやったね。すいませんでした」と苦笑された。A氏については、支援を拒まれることはなく、お話がお好きな方の方であった。し

かし、通所系サービスについては、知らない人との交流はあまりしたくないとの事であり、訪問介護の支援を継続したいという意向を確認した。

8月13日

自宅訪問。（訪問介護の支援中）

長男の姿はなく、本人とヘルパーの会話が和やかに経過していたが、サービス終了間近に長男が来られ、急に「サービスはやめる」との発言があり、「あんたたちが来ると母ちゃんは俺のことは他人のように言うようになってきて、俺も介護しよるとに失礼な話や・・・。」と心境を話された。確かにA氏も認知状態が曖昧な時、まったく分からない時、通じる時と場面によって反応が異なっていた事は、ヘルパーからの報告にも挙がってきていた。長男に認知症の症状を説明したが、「医者言う事と一緒に。しばらくサービスはなし」と攻撃的な口調で突き放され、一旦サービスを休止にする事となった。

8月18日

長男に連絡し、自宅訪問の了解を得て、訪問。丁度、昼食中であつた。長男が買ってきたお弁当を2人で分けて食べておられた。相変わらずキャスター付きの椅子で移動されていたが何となく、下肢に力が入らないような印象を受け、A氏に尋ねると「少し腰が痛いよ。でも、動けるから大丈夫」と笑顔が見られた。しかし気になり、長男に「これから動きが悪くなるようであれば早めに受診された方がいいですよ。」と助言をしたが、A氏から「●●ちゃんがしてくれるから大丈夫」と再び言われ、長男からも「あがん言いよらすけん、あんたたちの支援は受けん。俺がする・・・。」と

の事であった。しかし、これ以上話をしてもらえず、また長男が攻撃的になられると怖い、との思いがあり、不安を感じながらも事務所に帰った。長男には、「何か困ったことがあったら、連絡下さい・・・」と伝えた。

8月19日

夕方、長男より連絡あり。「昨夜、母ちゃんがベッドから落ちて、思うように体を動かさなくて困っている」との事だった。すぐにA氏宅を訪問するとA氏は畳にうつぶせになっておられ、尿臭がした。おむつも適切にはめておられず、仙骨部に発赤があった。A氏は「腰が痛いよ。いつからか分からないけど・・・。」と話され、長男も訪問してみて、驚いてどうしようもなく、ケアマネに連絡したとの事であった。とりあえず、長男の力も借りておむつ交換をしながら、救急車の手配を考え、長男にお願いするも、「俺が看る。おむつ交換の仕方がわかればどうにかなる」との一点張りだった。しかし、腰椎もしくは大腿骨の骨折の疑い、褥瘡の危険サインもあったため、丁寧に説明を繰り返したが、長男からは「母ちゃんと俺ば引き離そうとしよるとではないか？」との疑いの言葉が聞かれた。そのため、コロナ禍でどのような対応をされるかは病院次第で分からないが、まずは、このままにしてはおけない事、介護放棄になるかもしれない事を何度も説明して、ようやく長男は納得され、救急搬送する事が出来た。診察の結果、「第1, 2腰椎圧迫骨折」及び胸骨にも骨折様画像があるとの事だった。「即入院」との知らせを病院から受けた。

【考察】

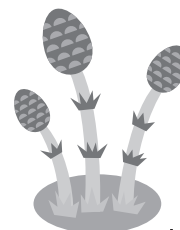
今回、実践事例に提出する事で、このA氏のケースについてじっくり振り返る事が出来た。その中で長男に対する気づきがあったので、考察としてお伝えしたい。A氏のケースは突然の相談から始まり、慌てて初回面談を行う事になってしまった。その初回面談で、長男から攻撃的な口調で話をされてしまって、ケアマネとしては怖気づいてしまった。長男に対する苦手意識がついてしまい、消極的な支援体制になってしまっていた。もう少し自信を持って、根拠ある説明や提案が出来ていたら、長男との向き合い方が変わっていたかもしれないと思う。

長男は生活リズムがバラバラで、自分の生活を最優先されていたため、担当者会議で取り決めていた事をなかなか守られなかった。理解力が乏しいからだと考えていたが、それだけではなかったという事も支援当時はなかなか気付けなかった。経済的部分のアセスメントもとりにくかった。A氏は月に12万程度の年金という事は通帳で確認していた。しかし、入院された際に長男から「自分の収入は月に5万しかなく、金銭面で困っていたが、年下であるケアマネにそこまでは話せなかった。恥ずかしい面を言えなかった」との話があった。少し長男の気持ちが理解できたような気がした。支援当時は、長男の思いに寄り添う事が出来ていなかったと思う。

今後も攻撃的な口調の利用者や家族と関わる事があるかもしれないが、出来るだけ苦手意識をもたず、相手の気持ちに寄り添い、余裕をもって対応していきたい。

リしー随想

No.58



介護予防・相談センター延寿苑の石橋さんよりバトンを渡されました、
居宅会議支援事業所そよかぜの松本です。利用者様の引き継ぎでご縁があり、
1人ケアマネで仕事をしている身としては、お声かけて頂きありがたかったです。

そよかぜは、住宅型有料老人ホーム羽山台ヒルズ内に併設している事業所です。皆様の
お住まいに出勤している毎日で、職場の話をさせてもらいます。

入居者様の生活は、コロナ禍になってから、ご家族との面会や近隣スーパーへの外出な
どは感染状況をみながら制限させて頂くようになりました。

長引く状況に、皆さん精神的にストレスがだいぶ溜まってきておられるのが理解でき
ても、感染から守るためには仕方がないと伝える事しかできない日々が続いていました。

そんな中、今年1月半ばに羽山台ヒルズに生後1か月の秋田犬 福ちゃんが初入社しまし
た。通所などで外出される利用者様をお見送りし、可愛さに皆さん笑顔いっぱいになられ
ました。あっという間に1か月経過した頃には、福ちゃんの大きさも倍以上に成長して
おり、会うたびに「大きくなったね～」と目を細められています。

福ちゃんの前では、入居者様も職員も普段は出さないかわいい声で話しかけ、自然に笑
顔がこぼれ、癒されまくっています。

動物と触れ合うアニマルセラピーは、ストレス解消や認知症高齢者への効果が期待でき
るようで、今後も福ちゃんに大いに活躍してもらいたいものです。

次のバトンは、コロナ禍前の更新研修時、駅のホームで知り合い、一緒に通う事ができ
た、白川病院ケアプランサービスの 川上 幸子 さんに渡します。

川上さんと通えて、すごく楽しかった記憶しかありません。バトンを受けて頂き、あり
がとうございます。

○ 居宅介護支援事業所
○ そよかぜ

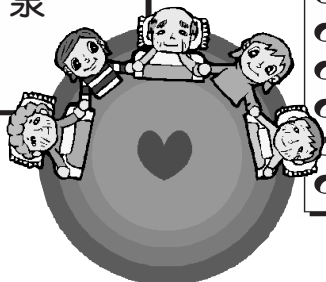
○ 松 本 泉

次回は……………

○ 白川病院
○ ケアプランサービス

○ 川 上 幸 子 さん

です。



4月
より

大牟田市保健センター

子育て

健康づくり

「らふる」がリニューアルオープンします!

子どもから高齢者まで市民の健康づくりを進める保健センターが、
健康づくり課の新設とともにリニューアルオープンします。

より利用しやすくなりました

新たにエレベーターを設置しバリアフリースイレ
や授乳室も再整備。また、施設正面には車いす利
用者用の駐車場を整備しました。

1階

子ども育成課(☎41-2248)

…保育所・認定こども園・幼稚園や
学童保育等の手続きなど

子ども家庭課(☎41-2661)

…児童手当や子ども医療、ひとり親支援、
母子保健、子育て相談など

2階

健康づくり課(☎41-2668)

…健康診査、健康相談、食育など

保健衛生課(☎41-2669)

…予防接種、公害補償、動物愛護など

新型コロナワクチン

接種推進室(☎41-2651)

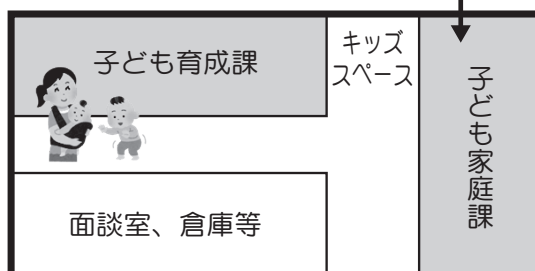
…ワクチン接種

3階

健(検)診や事業の会場

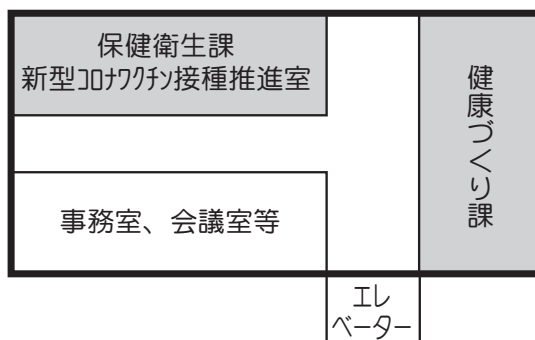
保健センター1階

はぐはぐ ☺ mura



子ども育成課と
子ども家庭課が、
本庁舎から移転します

保健センター2階



新たに「健康づくり課」を設置します

保健センター2階

市民の健康増進に向けて、健康づくり、介護予防等の業務を集約し、効率的・効果的な事業展開を図ります。また、保健師等に気軽に相談できる機会を充実し、市民一人ひとりが生涯にわたり健康で元気に暮らせるまちづくりに取り組みます。

〔健康づくり課の主な業務〕

健康づくり、健康診査(がん検診、国民健康保険特定健康診査等)、特定保健指導、健康教育、健康・栄養相談、食育、一般介護予防、生活習慣病対策など

【編集後記】

春の日差しが心地良くなりました。

新型コロナウイルスが日本で初めて確認されてもう2年が過ぎましたね。

最近は休日の外出も少なくなり、ネットフリ生活になってます。「早くみんなでワイワイしたいなー」と思いながらも、「これなかなかいいなー」と思う今日この頃です。

みなさん、休日は自分なりのストレス発散法を見つけてリフレッシュしながら、明日からの仕事もまた頑張りましょう。

(こぐまちゃん)

編集・発行 大牟田市介護支援専門員連絡協議会 広報事業部会
事務局 大牟田市福祉課総合相談担当内(TEL: 0944-41-2672 FAX: 0944-41-2662)
大牟田市介護支援専門員連絡協議会ホームページ <http://omuta-cm.net>